

# 平成27年度 田原市文教厚生委員会行政視察報告書

日 程 平成27年4月14日（火）

視察先 1 ソシオ成岩（ならわ）スポーツクラブ（半田市）  
2 乙川（おっかわ）スポーツクラブ （ " ）

参加者 委員長 大竹正章

副委員長 小川貴夫

委 員 河邊正男、赤尾昌昭、長神隆士、古川美栄

（同行 議長 太田由紀夫、事務局 高橋映美子書記）

## 【市の概要】

人口約 119,000 人。行政面積 47.24km<sup>2</sup>。名鉄、JR が乗り入れ。名古屋まで、40 分弱。市内には、5つの中学校区があり、各校区の中学校の校内もしくは隣接という形でスポーツクラブが設置されている。

半田市の小学校・中学校の部活動に相当するものは、このスポーツクラブで実施されている。（※小学校は部活動なし。中学校は、平成26年度より土日の中学校の部活動が再開された。校長の任意による。）

## 【総合型地域スポーツクラブ】

第2次半田市スポーツ振興計画において、総合型地域スポーツクラブは、実施計画のひとつに位置付けられている。

半田市のスポーツクラブは、地域が主体となり運営するもので、たくさんの種目を、世代、レベルを問わず活動できるのが特徴。各地域がそれぞれの地域で育み、発展させていく。

総合型地域スポーツクラブの主な活動場所は、小中学校のグラウンドや体育館。休日や平日の夜間に活動。クラブハウスは中学校の敷地内にある。

## 1 ソシオ成岩スポーツクラブ（半田市）

・平成27年4月14日（火）

13時～14時30分

・会 場 ソシオ成岩スポーツクラブ

・対応者 ソシオ成岩スポーツクラブ

マネージャー 富田 氏

半田市スポーツ課長 伊藤 氏

〃 スポーツ課 森下 氏



◆運営主体 NPO 法人ソシオ成岩スポーツクラブ（前身：成岩スポーツクラブ）

◆運営体制 理事長、職員5（事務1、指導員4）

◆会 員 数 校区内の中学生700人、人口約20,000人

◆会 費 大人36,000円（年額）

## ◆概要

総合型地域スポーツクラブでありながら、NPO法人格を有し、半田市からスポーツクラブハウスの指定管理の委託を受けて活動を行なっている。施設管理料、有償プログラムの参加費で5,000万円強の収入があり、会費を含めた歳入規模は8,000万円弱。小中学生を対象としたソーシャルプログラム事業、プロの指導によるアスリート育成を目指すウィングプロジェクト事業を実施している。

クラブハウスは、中学校体育館（1階部分）に併設されており、屋上テニス場を含め4階建て、リフレッシュルーム（風呂）やカフェスペースも併設している。

1994年 成岩地区「少年を守る会」が「スポーツタウン構想」を打ち上げる。

構想：地域の既存の少年チームを総合化し、中学校と連携して部活動の一部を社会体育化して取り込み、小中一貫性のスポーツクラブを立ち上げようというもの

1996年 成岩スポーツクラブ設立

2002年 NPO法人ソシオ成岩スポーツクラブ誕生

2003年 成岩中学校体育館と併設した半田市地域総合型スポーツクラブハウス竣工、管理運営の受託契約

2006年 クラブハウスの指定管理者に指定

## 2 乙川（おっかわ）スポーツクラブ

- ・平成27年4月14日（水）  
午後2時50分～4時15分
- ・会場 乙川交流センター「ニコパル」  
（乙川中学校に隣接）
- ・対応者 乙川スポーツクラブ  
理事長 近藤氏  
事務局長 岸野氏  
事業部長 松下氏 事業部 竹内氏



◆運営主体 乙川スポーツクラブ

◆運営体制 理事長、事務局（プロパーの雇用はなし、ボランティアによる運営）

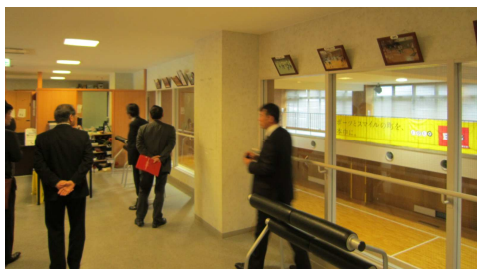
◆会員数 校区内の中学生900人、人口約20,000人

◆会費 大人3,000円（年額）

## ◆概要

平成13年にスポーツクラブ推進委員会が中心となり設立。現在は、乙川交流センター「ニコパル」内に事務所を置き運営している。運営スタッフはプロパーがおらず（募集中）、ボランティアにより行なわれている。

活動はチーム主体の自主活動と、総合的なクラブ活動で構成されている。クラブ活動では、スポーツ活動のみでなく、文化活動や、子育て、防災といった活動も展開している。



### 3 参考になった点

- ・ 教育委員会の主導により総合型地域スポーツクラブを選択し、部活動至上主義からの脱却（教員の多忙化解消）を理念としていた当時の発足状況は、現在においても多くの教育現場の課題であることから、そこに踏み込んだことに、成否を問わず共感と大きな一歩を確信する。
- ・ 地域認定スポーツアシスタントの認定制度、指導員の資質向上の講習会が用意されている。指導員の技量アップ（特にソシオ）がより求められてくるのではないかと。5地区291人、ボランティアによる指導員の確保がされている。
- ・ 各中学校区に一つのクラブが配置され学校の一角にクラブハウスが設置され、施設の有効利用とともに生徒・先生等も巻き込んで地域ぐるみでスポーツのまちづくりという方向をつくっている。
- ・ 各スポーツクラブの運営は基本的には受益者負担で行っており、指導者も若干の報酬はあるものの基本的にはボランティアで行っているとのこと。活動場所としては主に市の施設を利用しクラブ会員は優先的利用が出来るようになっている。また、指導者については市独自で「地域認定スポーツアシスタント」の資格を付与し、その資格のもと指導にあたっている。アシスタント資格取得にあたっては阿久比市のスポーツ理化学研究所で講習を受け、その後も定期的に研修などを積み重ね、安全や技能に配慮した指導が出来るようになっている。
- ・ 運営スタッフは高齢の地元ボランティアに頼っている様子で、今後スタッフの世代交代も課題となっているとのことである。運営予算も成岩に比べ1/10以上の差があり、サポーター会員からの協賛金などで補充している様子で、まさに地元密着で行っている感が強い。事業もスポーツ振興に関わる部分では健康増進などの事業が目立つほか、地域支援、子育て支援、防犯活動や震災支援などありスポーツクラブとしての機能より、スポーツを通じて地域の絆づくり組織の要素が多いと感じた

### 4 所感

- ・ ソシオにおいても当初の目的を達成しているとは言えない。大変に残念ではあるが教職員のプレゼンスは部活動という現場を含めて成立している現状がある。
- ・ 田原市では学校再編も計画されており、スポーツを通じた「地域一体化」は必須であると考えます。
- ・ 田原市において総合型地域スポーツクラブを進めるにあたっては施設整備など課題が多く、市が独自に進めることも良いが、民間のスポーツジムとの連携で進めることも会員にとってメリットがあるのではないかと。思う。
- ・ 多目的に使える事は施設の利用が最大限に活用出来、無駄がないので田原でも活用方法を検討し取組みをすると良いと感じた。
- ・ アスリートから健康、レクリエーションを目的とする、子供からお年寄りまでまさに総合型地域スポーツクラブの理想の施設を見学させていただいた。渥美地域で新設中学校を作るときに、ぜひ参考にすべきである。